

- 問1 国際的な環境問題とその原因物質に関する説明として、科学的なメカニズムに基づいた正しい記述を選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. メタンは、大気中の水分と反応して硫酸に変化し、森林を枯らす原因となる酸性雨を引き起こす。 | 2. フロンガスは、地球温暖化の直接的な主原因であり、強い酸性を持つ雨を発生させる性質がある。 | 3. 二酸化炭素やメタンは、地表面からの熱を吸収して地表付近の気温を上昇させる原因となる。 | 4. 二酸化炭素は、北極や南極の上空にあるオゾン層を破壊し、地表に届く有害な紫外線を増加させる。 |
|---|---|---|--|
- 問2 発展途上国などで導入されている、貧困層の人々が自立して事業を始められるよう、無担保で小口の資金を貸し出し、収入を得る機会を提供する仕組みを何といいますか。 (2024年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 1. インクルージョン | 2. マニファクチュア | 3. マイクロクレジット | 4. リージョナリズム |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
- 問3 特定の作物の輸出に頼るモノカルチャー経済下の生産者が、国際価格の変動による困窮から抜け出すための解決策の一つとして、継続的かつ公正な取引を行う動きがあります。この取り組みが目指す背景として最も適切なものはどれですか。 (2022年 鳥根県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 特定の企業が独占的に市場を支配し、価格決定権を生産者から奪うため | 2. 生産者が適正な利益を得ることで、生活の安定や子供の教育機会の確保を図るため | 3. 短期間に大量の食料を輸入することで、消費地の物価を安定させるため | 4. 先進国が安価な労働力を独占的に確保し、農産物の輸入総額を抑制するため |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------------------|
- 問4 日本は原油や天然ガスといったエネルギー資源の多くを海外からの輸入に依存しています。輸入が途絶えるリスクを抑え、エネルギー供給の安定を図るための対策として、最も適切な取り組みはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 海外からの輸入を完全に停止し、すべてのエネルギーを国内産出のみでまかなう。 | 2. 資源価格の変動を抑えるため、国内でのエネルギー消費量を一律に制限する。 | 3. 特定の国との関係を深め、その一国のみから集中的に輸入を行う。 | 4. 特定の国への依存を下げ、輸入相手国を増やすことで供給源を多角化する。 |
|--|--|-----------------------------------|---------------------------------------|
- 問5 地球温暖化の主な原因とされる温室効果の仕組みについて、正しく説明したものはどれですか。 (2016年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. フロンガスが上空の層を破壊し、太陽からの強い紫外線を直接地表に届かせる仕組み。 | 2. 都市部の建物や舗装道路が熱を蓄え、周辺地域よりも気温が著しく高くなる仕組み | 3. 大気中の二酸化炭素などが、地表から放射される熱を吸収して大気を暖める仕組み。 | 4. 化石燃料の燃焼で発生した硫酸化物が雨に溶け、森林を枯らして保水力を低下させる仕組み。 |
|--|--|---|---|
- 問6 持続可能な社会を実現するための消費者の行動として、特定の認証マークがついた製品を優先的に購入する取り組みがあります。この仕組みが発展途上国の生産者に対してもたらす効果として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--|
| 1. 先進国の優れた技術を無償で提供し、生産者が効率的に大量生産できるようにする | 2. 輸入の際に関税を免除することで、製品が市場でより安く販売されるようにする | 3. 適正な価格での継続的な取引を通じて、生産者の自立と環境保全を支援する | 4. 輸送距離を短縮することで、二酸化炭素の排出量を削減し、生産者の負担を減らす |
|--|---|---------------------------------------|--|
- 問7 日本の年間における食品廃棄物の総量は約739万トンであり、これは世界全体で行われている年間約480万トンの食料援助量を大きく上回っています。このような食料をめぐる国際的な状況と、そこから生じている課題について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2025年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 食品廃棄物が増えることは、海外からの農産物輸入を抑制する効果があるため、日本の食料自給率を向上させる解決策として期待されている。 | 2. 先進国で大量の食品が廃棄される一方で、途上国などを中心に深刻な栄養不足に苦しむ人々が数多く存在しており、食料分配の不均衡が大きな課題となっている。 | 3. 廃棄された食品のほとんどはバイオ燃料として再利用されるため、廃棄に伴う温室効果ガスの排出や環境問題への懸念は解消されている。 | 4. 世界全体の食料援助量が食品廃棄物の量を上回っているため、国際的な食料不足の問題はすでに解決しており、現在は環境保護のみが課題となっている。 |
|---|--|---|--|
- 問8 発展途上国で作られた農作物などを購入する際、フェアトレード（公平貿易）の仕組みを取り入れる主な理由として最も適切なものを、次から選びなさい。 (2021年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 関税を取り除くことで貿易額を最大化し、地球規模での市場競争を促すため。 | 2. 自国の農家を外国産の安い農産物との競争から守るために輸入制限を実施するため。 | 3. 先進国の企業が安い労働力を独占し、大量生産によるコスト削減を達成するため。 | 4. 途上国の生産者が不当に安く買い叩かれることを防ぎ、生活改善や経済的自立を支援するため。 |
|--|---|--|--|
- 問9 持続可能な社会の形成に向けて、環境の保全と開発の調和を図るための「環境アセスメント（環境影響評価）」の手続きとして、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 開発によって公害が発生した後に、被害の状況を調査して原因企業に賠償を命じる。 | 2. 製品の生産から廃棄までの過程において、リサイクルが正しく行われているかを評価する。 | 3. 開発事業の実施前に、周辺環境への影響を調査・予測・評価し、住民の意見などを計画に反映させる。 | 4. 温室効果ガスの排出量を削減するため、国や自治体が工場に対して排出基準を定め、監視を行う。 |
|---|--|---|---|
- 問10 持続可能な社会の実現に向けて電気自動車（EV）の普及が進められる中、その基盤となるインフラの整備が求められています。2016年時点の統計によれば、急速充電器の設置箇所数は全国的に増加傾向にありますが、神奈川県などの都市部と徳島県などの地方を比較した際に見られる、現代社会の課題として最も適切なものはどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--------------------------------------|
| 1. ガソリンスタンドの増加に合わせ、地方での設置数が都市部を大きく上回っている状況 | 2. 都市部で先行して整備が進む一方、都道府県間で設置数に大きな格差が生じている状況 | 3. 維持管理のコストを削減するため、全国的に設置箇所を減らし集約化を進めている状況 | 4. 全ての都道府県において、人口比に応じた均一な設置が完了している状況 |
|--|--|--|--------------------------------------|
- 問11 地球温暖化対策の一環として、交通部門における二酸化炭素の排出抑制が求められています。輸送量当たりの二酸化炭素排出量が、鉄道では自家用乗用車の約6分の1以下、バスでは約半分以下であるという事実に基づいた記述として、適切なものはどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 自家用乗用車は1人あたりの排出量が最も少ないため、環境対策として自家用車の普及をさらに推進すべきである | 2. 排出量の多いバスを積極的に利用することは、二酸化炭素の排出を抑制する観点から誤った選択である | 3. 鉄道の利用が増えると1人あたりの二酸化炭素排出量が増加するため、鉄道の運行本数を減らす必要がある | 4. 公共交通機関への利用シフトは、輸送効率を高め、社会全体での二酸化炭素排出量の削減につながる |
|--|---|---|--|